戸隠神社倭舞御巫子舞圖

孝明天皇元治元年春日祭古儀ニ
かへらせ給ひ此倭舞もふたゝび祭記ニ
興し行はせ給へるといみじくも
よろこばしきことなれば今こゝにこれを
仰ぎてこゝに記しぬ

今度春日祭儀式復古之
和倭舞之事自往古一家
連綿相兼神妙之至珍重ニ
候依之再興被仰下所也
至子々孫々専ニ励此職可
奉慰ニ神慮者也

元治元年十二月十六日　左少辨

富田大和守殿

此時倭哥琴笛譜大御前にて
みせまゐらし舞装束皆具を
給はり年毎に倭舞料青摺
弐小忌又禄をも下給ひを
控られ流石にもかけ給ふる人々
みなよろこびの涙にぬれ給へる
御宗なりけり

又明治二年十二月五日正三位為理卿
上卿代として参向ありしときに

いにしへにかへるみめぐみ
きまりしてわかしきことのはいろも
みよのさかえやまもと哉ころも

一　岩戸開御歌舞
一　大嘗會御歌舞
一　田植神々豊作御歌舞
一　雨乞感應御歌舞
一　上天初晴御歌舞
一　病氣平愈御歌舞
一　鎮魂祭御歌舞

明治八年九月十五日開興

従四位中臣殖栗連富田光美門弟
戸隠神社倭舞司

二澤清兄
横倉千早
高山多膳
極意比左志
武井磐
諏訪勝見
松井筑波
藤井筑摩
安藤植喜